

事業名

女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト

実施センター

川崎市男女共同参画センター

施設名 川崎市男女共同参画センター

川崎市高津区溝口2-20-1

Tel. 044-813-0808 Fax. 044-813-0864

E-mail. scrum21@scrum21.or.jp

URL <http://www.scrum21.or.jp>

指定管理者 TEPCOパブリックサービス

センターについて

1999(平成11)年9月に区の市民館を改修し、愛称「すくらむ21」として開館。2006(平成18)年度より、指定管理者としてTEPCOパブリックサービスが運営者となり現在2期目。施設貸出と男女共同参画にかかわる主催事業を実施。例えば、市民講師事業や市民活動団体協働事業のほか、相談、調査研究、情報提供、さらに民間の強みを活かし、事業所との連携講座・イベント・キャンペーン等を手がけ、身近な男女共同参画事業を心がけている。来館者は、年間延べ9万人。

事業内容の紹介

本プロジェクトは、女性の視点で防災冊子を製作するための準備プロジェクトであり、製作した冊子の利活用についての検討や付随した防災講座の企画・実施、その際使用する学習教材の資料作成、プロジェクトのプロセス紹介、情報提供、調査などを実施することがメンバーの役割である。自ら主体的に①防災冊子の制作のための基礎調査活動(アンケート調査やヒアリング)やソーシャルメディア等を利用した情報発信、②関連する講座の企画・実施ができる女性市民をプロジェクトメンバーとして公募し、インターンシップ研修生(大学生)の男女と共に、9月~3月までの約半年間かけてプロジェクトに参画した。これまでの経験や収集した情報をふまえながら、男女共同参画の視点を盛り込んだ防災冊子を作成することを目指し、防災冊子製作会議にて制作する防災冊子に内容を反映したほか、防災関連講座を一から企画・実施した。なお、次年度以降もメンバーを募集し、事業をさらに展開していく。

実施までの経緯

- 3.11東日本大震災により川崎市に避難を余儀なくされている女性を中心に避難所への物資の募集と提供、相談会の実施、また、2011年12月から取り組んでいる女性とこどもの避難者ほっとサロン事業を実施してきた。被災した女性の置かれている現状について、避難者や支援者からの声を聞く中で、首都圏に位置する川崎市の特性を踏まえながら、特に災害時に女性が置き去りにならないよう、男女共同参画の視点から防災のまちづくりを進めていく必要があった。
- 川崎市においても町内会を基盤とした自主防災組織やまちづくり協議会、市民館等での防災に関する学習会や防災訓練が市内各所で行われているが、男女共同参画の視点からの具体的な防災への取り組みは、地域の防災計画へ一文が追加されたのみであり、地域の防災計画の改定や防災に関する各種マニユ

アル、検討組織等の合意形成を図る場において、女性の参画を位置付けているものはまだまだ少ないのが実状である。災害時の被災者は高齢者や女性が多いと報告されているにも関わらず、地域においても町会長、自治会長などのリーダーの多くは男性が担う傾向があり、女性の意見や要望を発言しづらい環境にあるといえる。防災訓練等への参加者は高齢化しており、訓練時においては、炊き出しは女性、災害トイレの組み立ては男性、というように、男女で役割が固定化されている傾向が見られる。そこで、地域の男女共同参画センターとして、地域の防災の担い手を養成する仕組みそのものを市民が主体になって考えていけるプロジェクト型の事業の実施が望ましいと判断し実施した。

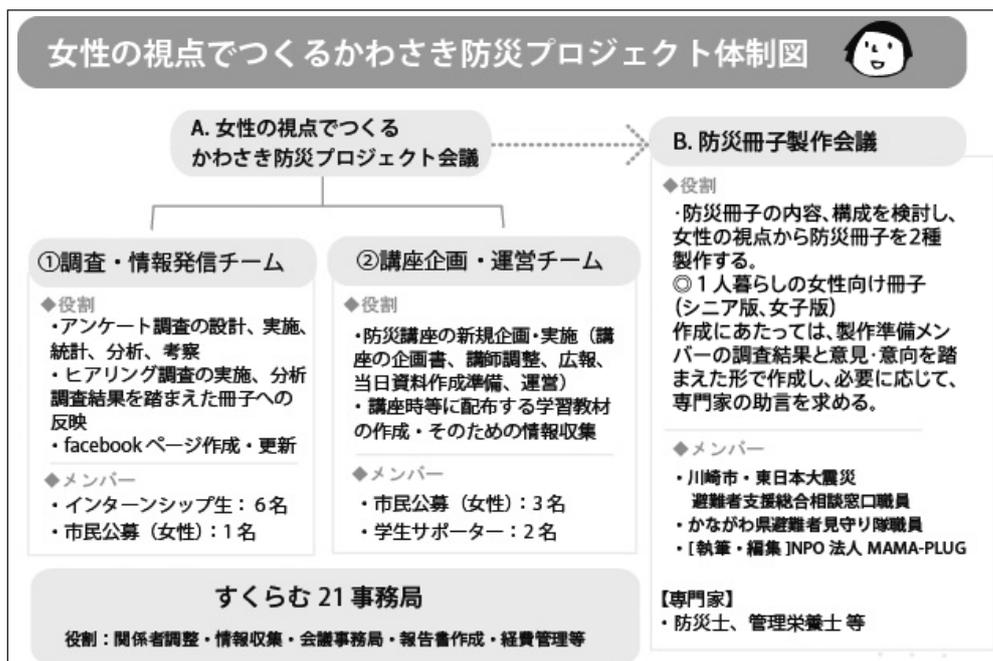
学習プログラムの概要

【目的】

女性の視点を活かした防災冊子の製作を行うため、市民公募のメンバーと共に、①情報収集・調査活動・情報発信、②女性の視点を活かした防災講座の企画・実施、③防災冊子の利活用の道筋づくりを行う。



【体制】 参加者：12名（女性：8名）



【スケジュール】

時 期	プロジェクト会議	①基礎調査・情報発信	②講座企画・運営
8月中		先行事例のヒアリング 情報収集 ★1	
9/1 (土)	オリエンテーション		
10/20 (土)	第1回目防災会議 ・避難者へのヒアリングの実 施検討、夏期ヒアリング結 果 のwebレポート作成	・アンケート調査作成 ・FBによる情報発信につい ての検討	
11/14~21	ファシリテーショングラフィック講座 (11/14、17、21) ★2		
11/17 (土)	第2回目会議 ・フェイスブックページ作成、 防災冊子PJページ作成 ・業者の確定 (委託先：MAMA-PLUG)	・調査事業 (大学生、高齢者) ・アンケート案の確定作業	・講座企画 (2月、3月：2-3企画)
12/1(土)	第3回目会議 ・アンケート調査 ・講座企画打ち合わせ ・調査についての相談 ・取材の実施等検討	・アンケート印刷作業 ・大学生への実施と回収	企画準備・広報 講座企画打ち合わせ
12/7 (金)	臨時会議		
12/20 (木)	第4回目会議 防災冊子製作会議参加		
1/12 (土)	第5回目会議 ・アンケート実施結果分析		企画準備・広報 講座内容の検討
1/21 (月)		・高齢者へのヒアリング調査 (高津区老人会婦人部女性 リーダー) 40名	講座準備・実験
1/24 (木)	臨時会議	1/20~1月末 ・フェイスブックの作成 ・一人暮らし女子ヒアリング 調査 (3名)	企画準備・広報 チラシ打ち合わせ、準備物確 認
2/16 (土) 2/17 (日)	講座実施時のアナウンス	1月~2月中 行政の部署へのヒアリング ・被災地支援の保健師 ・川崎区役所副区長 ・川崎市環境局収集計画課 ・フェイスブックの更新作業	講座の実施 ・女性の視点でつくる防災 フォーラム ★2 ・防災講座①震災食づくり ・防災講座②エッグキャンド ルづくり ★3
2/23 (土)	第6回目会議 ・3月講座の確認 ・防災冊子内容修正案まとめ		
3/1 (金)		会場打ち合わせ、実験、リハーサル (司会原稿の作成、発表資料の作成、活動紹介等)	

3/22 (金)	全メンバーで運営 『防災講座③大震災<トイレの水は流せない>そのときあなたは?』 定員：100名に対し、110名超（3/8時点）
3月	報告書作成

学習プログラムの具体的構成

★1 ウェブページでの取り組み事例やヒアリング先の紹介

地域で取り組む防災事例	
平成24年 取材先一覧	
	特別養護老人ホーム 金井原苑 苑長 依田明子さん
	川崎市多摩区生田 月見台自治会 総務部長 池野慶さん
	中原区役所 川崎市東日本大震災避難者支援総合相談窓口 中村佳代さん
	川崎アゼリア株式会社 古尾谷敏江様



★2 センターが人材育成のためにメンバー向けに開催した講座

講座名	ファシリテーショングラフィック講座	
実施日	2012年11月14日（水）、11月21日（水）18時30分～20時30分 11月17日（土）10時00分～15時00分	
参加者数	定員（20）申込（16）参加延（34：うち男性7）	
講師	大枝 奈美 氏（（有）アトリエウェイブ代表、コミュニティ・ファシリテーター）	
カリキュラム （講座内容）	月 日	内容
	11月14日	【体験】板書のある会議 ①どうして話し合いに板書が必要なの？ ②板書のある話し合いを体験してみよう ③板書があるとどうなるかふりかえろう
	11月17日	【実践】話し合いを書いてみよう ④板書の基本・道具、板書の位置、紙の貼り方、マーカーで書いてみよう ⑤話し合いを書く実習 ⑥ふりかえりと共有
	11月21日	【実践】もっと板書を生かすには？ ⑦板書の役割再確認 ⑧板書の内容を活かすタイミング ⑨講座全体を通じて現場で活かす質問大会

女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト

講座名	女性の視点でつくる本気の防災とは
実施日	2013年2月16日（土）10時30分～12時00分
参加者数	定員（35）申込（30）参加延（30：うち男性7）
講師	竹信 三恵子 氏（和光大学教授） 古尾谷 敏江 氏（アゼリア株式会社 渉外課長） 富川 万美 氏（MAMA-PLUG）
カリキュラム （講座内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・講演「女性が置き去りにならない防災・復興とは」（竹信氏） ・事例紹介①「女性のエンパワメントで女性リーダーを増やし持続可能な地域へ」（古尾谷氏） ・事例紹介②「生活応援バッグづくりと復興支援、当事者と考える町づくりの防災出前講座の取り組みから見えてきたこと」（富川氏）

★3 メンバーがプロジェクトの過程で企画し、実施した講座

講座名	体験で学ぶ食の防災「震災食づくり」
実施日	2013年2月16日（土）13時45分～15時45分
参加者数	定員（20）申込（19）参加（15）保育（1）
講師	田邊 弘子 氏（管理栄養士）
カリキュラム （講座内容）	内 容
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義：非常時の食の備えについて 2. 調理実習：身近にある材料ですいとんと煮物作り 3. 試食 4. 質疑応答、まとめ

講座名	エッグキャンドルをつくろう！
参加者数	定員（18）申込（12）参加（13）保育（0）
実施日	2013年2月17日（日）10時30分～12時00分
講師	飯塚 有香 氏・草野 亜美 氏（社会教育実習研修生）
カリキュラム （講座内容）	内 容
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 防災とエコ～身近なもので灯りを用意する～ 2. エッグキャンドル作り

講座名	大震災＜トイレの水は流せない＞その時、あなたは？
参加者数	定員（100）申込（143）未実施
実施日	2013年3月22日（金）13時30分～15時30分
講師	藤枝 絢子 氏（トイレの未来を考える会・京都大学大学院地球環境学助教） 川崎市 環境局 生活環境部職員 女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクトメンバー

内 容	
カリキュラム (講座内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演 「被災地のトイレ事情とUDドライトイレの挑戦」 <組み立てUDドライトイレ>実演 ・ 情報提供① 川崎市の災害時のトイレ対策について ・ 情報提供② 災害時の配水管の自己点検法 ・ 実験 「比べてみよう！ 流さないトイレ」



講座準備 (実験の様子)

大震災「トイレの水は流せない」

・・・その時、あなたは？

災害時のトイレ事情教えます！

トイレのことは、生活していくうえで欠かせない問題。被災地の現状や行政の取り組みを知って、イザというときに今から備えておきましょう。

実験！簡易トイレの使い勝手

身近なものを使って、手軽に、目撃からどのように備えたらいいのか、実験を通して、自分で確かめませんか。

3月22日 (金) 13:30～15:30

① 講演 「被災地のトイレ事情とUDドライトイレの挑戦」
トイレの未来を考える会
川崎市立中央図書館 加藤 藤枝 絢子

【 特別講演者 】
● 川崎市の災害時のトイレ対策について / 川崎市 環境局 生活環境課 加藤 藤枝 絢子
● 災害時の配水管の自己点検法/自治体の視点から見る防災準備の推進プロジェクトメンバー

② 実験
実験その(1)「組み立てよう！UDドライトイレ」
実験その(2)「比べてみよう！流さないトイレ」

UDドライトイレとは、節水を約9割、水を捨てず処理する簡易トイレです。

場所 川崎市男女共同参画センター(愛称:すくらむ21) 21階 大ホール

対象 川崎市在住・在勤・在学の方

定員 100名

保育 あり(事前予約)

受講料 無料

保育について
● 対象 18名、200円(1歳～就学前まで)
● 飲み物、おやつ、おしりふき、ハンドタオル、ティールーム 持参

申込受付：2/25 (月) 9:30～3/15 (金) 17:00

会場および申込方法の詳細は裏面をご覧ください。電話、FAX、ホームページにて。

主催：川崎市男女共同参画センター(愛称:すくらむ21)、防災備蓄準備プロジェクトメンバー

企画している講座のチラシ

教材 (例)

話し合いを助ける記録をしよう

ファシリテーション・グラフィック入門

あなたはこんな悩みを抱えていませんか？
会議は多いけど、なかなか実質的な会にならない。それはなぜか？
「話し合いを見える化する」話し合いを進める記録のあり方を体系的に学びませんか。

会議が辛い

話がまとまらない

進まない

facilitation

graphic

有意義な会議

11/14 (水)

18:30～20:30

会場 祈念のある会議

11/17 (土)

10:00～15:00

会場 話し合いを豊かにしよう

11/21 (水)

18:30～20:30

会場 もっと和室を活かそう

*講師：大塚 奈美 氏 (元) アトリエウェブ川崎、コミュニケーションファシリテーター
*会場：すくらむ21 第1・2研修室(2階)
*対象：テーマに関心のある市民(女性優先)
*定員：20名(応募多数の場合は、希望の順に人数を削ります)
*受講料：1500円
*申込：個人申込、申込書(お申し込みの日の2週間前までに事務局まで届けてください)
*持ち物：筆記用具、(11/17は昼食必須)
*保育：あり

申込 10月16日(火) 9:00～ 電話、FAX、ホームページにて受付可。
11月5日(木) 9:00～ 会場および申込方法の詳細は裏面をご覧ください。
主催：川崎市男女共同参画センター(愛称:すくらむ21)



打ち合わせや会議の進め方、記録の仕方を学ぶための連続講座 及び それを実際にプロジェクトの会議で活かしている様子

川崎市男女共同参画センター
大学生の防災行動・意識に関する調査

このアンケートは、川崎市男女共同参画センター(すくらむ21)が市民連携メンバーならびにインターンシップ参加者と選んでいる、防災冊子作成プロジェクトの一環として実施するものです。ご回答頂いた内容は、統計的に処理をし、冊子記事作成の参考にさせていただきます。
お手数ですがご回答が、調査員が説明した方法に基づいてご回答をお寄せください。お願い申し上げます。

【お問合せ先】川崎市男女共同参画センター(受付:すくらむ21) 防災冊子作成プロジェクトチーム
〒213-0001 神奈川県川崎市高津区横口 2-20-1
TEL:044-813-0800 FAX:044-813-0864 Email:scnum21@scnum21.or.jp

【調査経緯】東日本大震災当日(2011年3月11日)のあなたの行動についてお尋ねします。

問1 あなたは震災発生時、どちらにいらっしやいましたか。あてはまるものを1つに○をつけてください。

1 屋外 2 自宅 3 学校 4 アルバイト先 5 その他外出先()

問2 震災発生時、あなたはどなたと一緒にいらっしやいましたか。あてはまる方をすべて○をつけてください。

1 1人でした 2 恋人 3 家族 4 友達
5 アルバイト先の人 6 不特定多数の人 7 その他()

問3 震災発生直後、あなたは、次にあげる情報機器について、どの程度「役に立った」と感じましたか。
①～⑦の項目ごとに、あなたのお気持ちに近いものを1つずつ○をつけてください。

	とても役に立った	やや役に立った	あまり役に立たなかった	まったく役に立たなかった	情報手段として使用しなかった
① 固定電話	1	2	3	4	5
② 携帯電話(通話)	1	2	3	4	5
③ 携帯電話(メール)	1	2	3	4	5
④ 携帯電話(インターネット)	1	2	3	4	5
⑤ パソコン	1	2	3	4	5
⑥ テレビ	1	2	3	4	5
⑦ ラジオ	1	2	3	4	5

問4 問1で1つでも役に立った「やや役に立った」に答えた方にお尋ねします。
問3では、上記①～⑦の自宅にある情報機器のなかで、最も役に立ったと感じたものはどれですか。あてはまるものの番号と、その理由を具体的に記入ください。

最も役に立った情報機器 番 (理由)

アンケート調査用紙



防災冊子の検討 (左:シニア版、右:若年女子向け版) ※製作途中段階のものへの添削

企画時や実施時に工夫したこと

- 職員がメンバーにプロジェクトのあり方や役割を繰り返し説明し、一人一人の力を発揮できるようファシリテートした。また、実施に向けてはチーム制にし、レジュメの作成から取材、調査の方法や情報提供の仕方の分担など、具体的にスケジュールを管理しながら、役割を明確にして取り組んだ。
- 会議ごとに摘録を作成し、メーリングリストで共有した。
- 大学生を含め、異世代(20代~60代)で構成することでお互いの価値観や考え方の違い、参加動機やできることなどの違いが互いの学びや刺激になっていた。実施時期を、夏期インターンシップ研修後の9/1(防災の日)からのスタートに設定した。
- 募集時に、防災冊子についての意見や応募者がこれまでの経験から提供できると思うノウハウ、活用できそうなネットワーク等について自己申告してもらう形式を取った。
- 取材活動やアンケート調査の協力依頼等のために、メンバーの名刺を新たに作成し外部活動をしやすい

いきっかけを作った。

- 大学生のチームについては、大学の授業等での学びを活かした形で実施ができるよう、調査用紙の設計から集計結果の分析、それに伴う会議についてもスカイプで会議を行うなど、学生達の時間を有効に使いながら継続できる形を模索して実施した。
- 女性とこどものための避難者ほっとサロンにて、市民のメンバー・学生メンバーが避難者から直接ヒアリングをすることができたことで、具体的な講座のテーマの絞込みや今回のプロジェクトの意義をそれぞれが認識することができた。インターンシップ研修終了後もセンターのサポーターとして登録してボランティアで本プロジェクトに関わる等の主体性が芽生えた。
- 講座の企画・実施、また、地域場で活躍していく上でも必要と思われる知識の習得（女性の視点を活かすとはどういうことか、被災地で何が起こっていたのか等）、打ち合わせ等でのスキルを養成するため、11月と2月にセンターの職員が主体となって講座を企画し、それらをメンバーに受講してもらうことで、その後の会議の場での発言や会議以外の場での自主的な行動につながった。さらに、それらの講座は、一般公開とし、男性の町内会長、女性の管理職やそれをめざす立場の方、ヒアリング先の老人会婦人部の女性リーダーにも参加していただく機会とした。
- 調査分析にあたっては、専門性の高い職員（大学の非常勤講師）が調査設計を支援し、データの分析方法や考察についても指導したことで、学生にとっての学習機会ともなった。



防災プロジェクトメンバーの名刺



メンバーが作成しているフェイスブック

参加者の声

- 私たちはこのプロジェクトを通じてかなり力をつけたことは事実です。来年は自分の暮らす街で“防災”関連の役員として活動していきます。
- 参加するまでは、男女共同参画センターを理解できていなかったが、自分が講座を担当し、同じ立場の市民に発信し講座そのものを運営する立場になり、準備不足や視点の甘さ、スタッフとしての動き方など、講座の参加者の立場ではまったく気付くことのできないことに気付かされた。また、そこにスキルが必要であることがわかり、将来に活かしたいと強く感じた。引き続き、関心を持って事業に関わりたいと思った。
- 自分たちの役割が最初は、防災冊子に必要なことを意見する立場だと思っていた。しかし、実際には、生活者として、家族の介護や子育てを担ってきた経験からの細やかな気付きや視点、性別役割分担意識の問題や女性の健康・衛生面から必要な支援ニーズの違い等、具体的にどのようなことを盛り込めばいいのか、深く考え講座の企画内容も検討した。他機関等で開催された講座を受講したり、書籍を読むことで、とても勉強になった。
- 名刺をつくってもらったことが嬉しかった。講座のタイトル、定員、構成、講座の目的や今後の展開について検討し、準備までに情報収集をしたり、他の主体が開催する講座に申し込んで受講生になったり、自分たちの企画講座を紹介させてもらったり、活動を何度も振り返る機会があり、とても成長したと実感している。「日常できないことは災害時にもできない」ということも学習する中で強く感じるようになった。また、講座等の資料を作成しながら、正確さや責任を感じながら真剣に取り組んでいる。

実施後の状況

- 常に自分が何をしなければいけないのか、次に進めていくために、誰に何をヒアリングするのか、どこにチラシを配布したいのか、一つ一つ事を進めるために考え、事務局に提案し、具体的な動きにつなげていった。
→プロジェクトの主体はセンターではなく、メンバー自身であることを常に意識できるように働きかけた。事務局として頼まれた取材先等の調整はスピーディに行った。
- 自らの関心でグループ活動を始めた。
→仕事の有無や過去の活動等に関係なく、「今から、ここから、思いを形にする」ことができ、自らがその担い手になれるというメッセージを職員が伝え続けた。
- PCスキル、情報メディアの活用技術の向上
パソコンが使いえなかったメンバーがメーリングリストを活用し、メンバーに情報を共有したり、ワードで講座資料や原稿を文章作成したり、添付したりして情報を共有できるようになった。さらに、他

のメンバーも会議ごとにレジュメを作成して会議の時間を有効に使おうと努めた。

→最初は議事録等を郵送をしていたが、時間も手間もコストもかかることが伝わり、PCを活用することのメリットを伝える中で、本人の行動が変化した。

- フェイスブックページの立ち上げについては、自分の今後のためにもなると、自ら書籍を購入し学習してページの更新作業等を行った。他のメンバーもフェイスブックを見るためにフェイスブックのアカウントを取得するなど努力した。

→フルタイムで子育て中のため頻繁に打合せに参加することはできないが、メンバーとして参画しようとした出発点を大事にして、「やってみたい」気持ちを逃さず、自分の関わりどころを見つけられるよう情報発信チームを担当してもらうこととした。

- メンバーそれぞれが、1つの講座に向けて分担して積極的に取り組むことができた。例えば、手書きでイラストを用意したり、自宅で講座内の実験道具を作ったりと創意工夫を凝らしていた。講座の講師の選定を自分たちでやり、配布資料や講座の司会原稿、当日のタイムテーブル、体制表等も作成した。
- サンプルを提示し、講座の規模や講座運営上のノウハウの提供、必要な視点について具体的に示すことで「自分たちでできるかもしれない」という期待感と「やらなければならない」という気持ちが芽生えていた。

今後に向けた課題

防災冊子の紙面が限られるため、掲載できない情報等については、出前講座実施時に補足教材・資料（ルーズリーフ形式の防災ノート）として作成し、配布することを検討している。また、ウェブでの「女性の視点で考えるかわさき防災プロジェクト」サイトを充実させていく。

今年度のプロジェクトがこのまま終わることのないよう、メンバーがマンションの管理組合の理事等、自分の暮らす街で女性の防災リーダーとして活躍していくことを後押しし、冊子を利活用したテーマ別の出前講座を企画実施するほか、他の地域内の防災の取組を行うNPO団体等とも連携して各区単位での展開をめざす。今後の大きな方向性としては、市民メンバーをさらに募集し男女のニーズの違いを知らせながら、自助力を高めるための具体的な備え方を提案し普及させていくこと、女性の防災リーダーの養成、男女双方が防災対策、防災計画等の合意形成に参画できる仕組み、避難所運営（プライバシーと相談体制の確保）における配慮と対策、備蓄物資（女性の視点に配慮した備蓄物資の整備、強化）等につながる事業の実施を目指す。